

○議長（茅沼隆文）

続いて、一般質問を行います。１１番、菊川敬人議員、どうぞ。

○１１番（菊川敬人）

議席番号１１番、菊川敬人です。

「近隣の動向に左右されない開成町独自のまちづくりをすべき」について、伺いたと思います。今回は、開成町が築き上げてきたまちづくりが今後問われる重要な時期であると推測いたしますので、期待を持って、これから質問をしたいと思います。

最近、唐突に中核市を見据えた合併が報道されたことで、一部で町の将来を案ずる声が聞こえてきます。振り返れば、県西地域２市８町の合併検討会が平成１９年に設立され、多岐にわたり調査・研究が進められましたが、２市８町の足並みがそろわなかったために平成２２年に検討会は終息いたしました。多くの労力を結集し、研究されていたことがよみがえってきます。そして、その後は継続して広域協議会を設け調査を進めることになっていましたが、我々の耳には、その経過について、なかなか聞こえてこない状況であります。

近年の社会状況に鑑みますと、景気回復は不透明であるために、市町村においての徹底した行政改革を進めるためのコスト縮減や施策の効率化による市町村単独での行政改革は、いずれ限界を迎えると感じます。また、一方では、平成２２年６月に地域主権戦略大綱が閣議決定し、日本国憲法の理念のもとに、住民に身近な行政は、できる限り地方公共団体に委ねることを基本としています。この大綱に掲げられた事務は制度的に移譲されることとなるために、単独の市町村で行うより複数の市町村が共同で取り組むほうが効率的で有効であり、周辺自治体との広域連携は不可欠であると思います。

よって、今こそ町として英知を結集し、町のビジョンを崩すことなく町民と一体となったまちづくりを進めることが肝要であります。町制６０周年に掲げた「田舎モダン」のキャッチコピーをどのように活用したまちづくりを展開していくのか、大いに期待するところであり、その意気込みを伺いたしたいと思います。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、菊川議員のご質問にお答えします。

人口減少や少子高齢化が進行するとともに、行政課題の複雑化・高度化が進んでおり、基礎自治体が直面するさまざまな課題を解決するため、市町村の枠組みを超えた広域連携強化の必要性が高まっております。開成町におきましても、ごみ処理、し尿処理、消防等、様々な分野において近隣市町と広域的な連携を進めております。

県西地域２市８町では、一体的な広域連携を推進するため、昭和４４年から神奈

川県も含めた「県西地域広域市町村圏協議会」を組織し、広域的な行政課題についての調査・研究や防災対策の検討、公共施設の広域相互利用等に取り組み、県西地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図ってきました。

また、2市と足柄上郡5町での「あしがら広域圏ネットワーク」や、小田原市と足柄下郡3町での「西さがみ連邦共和国」の設置などにより、様々な広域連携を推進してきました。この2市8町を圏域とした広域での一体的な取り組みは、平成21年の合併議論の終結と時を同じくして解消し、歴史と特徴ある広域連携の形態を継続していくための新たなステップとして、平成22年に「神奈川県西部広域行政協議会」を設置し、広域的な行政課題の解決についての調査・研究を現在も進めております。また、併せて、神奈川県・山梨県・静岡県の市町村とともに、富士・箱根・伊豆を基軸としたネットワークを形成し、観光や防災などをテーマとし連携も進めております。

この他にも、足柄上地区1市5町や県西地域2市8町の枠組みで一部事務組合や事務委託等により、様々な分野で広域行政を進めており、スケールメリットによる効率性の向上や経費削減等の成果が表れていると認識をしております。

今回の小田原市と南足柄市による、「（仮称）県西地域における中心市のあり方に関する2市協議会」の設置を契機に、広域連携の更なるあり方について、改めて足柄上郡5町で研究を行い、広域連携の拡大及び深化を図っていきたいと考えております。

次の『「田舎モダン」のキャッチコピーをどのように活用したまちづくりを展開していくのかということ』について、お答えをいたします。

まずは、開成町の町民憲章に基づき、「総合計画」や「都市計画マスタープラン」等で示している施策を、着実に実現していくことが重要であると考えております。平成27年2月の町制施行60周年を契機に、町のブランディング事業に着手し、町のキャッチコピーとして「田舎モダン」を掲げ、町のロゴマークも一新をいたしました。このブランディングの取り組みを通して「開成町って何かいいよね」という雰囲気を感じ、愛着を持っていただき、誇りと憧れを持って多くの方が集まってくるようなまちづくりを更に進めていきたいと考えております。

今後も、町内外に向けて様々な「元気」を発信することで、多くの方々に町の変化を感じていただき、定住促進に向けた好循環を生み出してまいりたいと考えております。平成27年国勢調査では、前回調査時からの人口及び世帯数の増加率が県内トップの結果でありました。子育て支援策や教育施策をさらに充実させていくことで、人口や世帯数の増加を継続させていきます。

広域連携のあり方につきましても、近隣自治体と十分に協議を行い、県西地域の活性化を周辺自治体とともに実現をしていきたいと考えております。「連携中枢都市圏構想」等の新たな広域連携の検討が進められる中で、まずは開成町とそれぞれの町が自立性・独立性を高め、個性を磨いていくことが最も重要であります。このことが相乗効果となり、「あしがら」としての一体感を生み、地域のまとまりを強

めることから、圏域全体の発展、活性化につながってくるものと考えております。

例えば、あしがらのネームバリューを高める「ローカルブランディング事業」の実施について、足柄上地区で検討し、形にしていけるよう、町民の皆さんの声を聞きながら進めていきたいと考えております。開成町としても、町の自立性・独立性を高め、「田舎モダン」なまちとして、より広く認識していただけるよう個性を磨き、町民の皆さんと一体となって将来にわたり、活力あるまちづくりを進めていきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○11番（菊川敬人）

丁重な答弁をいただきました。改めて質問していきたいと思います。

今、小田原市、南足柄市、そして上郡、それぞれの議会で合併に関する質問が出されております。これはもうご承知のとおりだと思いますが、本日は、まちづくりの基本を含めた形で伺っていききたいと思います。合併については、まだ、なかなか確認できない部分というのがありますので、非常に質問もしづらい部分がありますが、何点か伺いたいと思います。

2月2日に小田原市と南足柄市が共同会見を開き、合併や中核市移行の是非を検討する任意の協議会を10月までに建設すると発表しましたが、このことにより、にわかに合併ムードが高まってきたように思われます。これは、平成22年に棚上げされた検討課題を改めて再開するように思えてなりません。当時の検討会が解散したときを思い浮かべますと、その背景には、社会情勢の変化等に対応するため地方分権の推進、少子高齢化、市・町を取り巻く財政の厳しさがあったと思います。また、中核市の人口要件である30万人以上ということがありました。2市8町があったことは、一つの足並みがそろわなかったという要因ではなかったかなというふうに思います。

このときに検討されていたことのメリット面では、例えば、首長が10人から1人になるということとか職員数は1割程度削減できますということ、あるいは議員数は160名が46名に削減できる、いろいろなことが数値化されていたわけですが、それ以上に一つになれなかった難しさがあったのではないかと思います。

今、私が考えることは、小田原市と南足柄市が中核市となるべく要件の人口の確保、必要性から合併へ向けた議論が進められると思いますが、開成町としては、こうしたことに左右されず、第五次総合計画あるいは都市計画マスタープランに従い独自のまちづくりを進めることで、足元をしっかりと固めることが重要であると思います。そうすることで、今後、その先へつながることと考えます。したがって、今こそが町長が述べられる三本の柱、日本一元気な町、健康な町、きれいな町、このまちづくりを、より具体的に述べていただくことが町民にとって非常にわかりやすいことではないかと思いますので、改めてお伺いいたします。町長の、三本の

柱について、現状のお考えをもう一度お聞かせください。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

菊川議員が最初の質問でもご指摘のとおり、小田原市と南足柄市の件が新聞に報道されて、一般の町民の皆さんも開成町はどうなるのだろうという、そのような不安や、そういう中で、正しい情報がない中でいろいろな憶測が飛び交っているということも私の耳に入ってきましたので、そういうことも含めて、先日の町民まちづくり集会の中で、この件について正しい情報として、今、我々が得ている情報をきちんとお伝えしなければということで、今回、一つのテーマに掲げさせていただきました。連携中枢都市圏ほか、さまざまな難しい名称もありますので、その辺も含めて誤解のないようにということで。

先ほど菊川議員が言われたように、前回の２市８町の合併の再燃という話もちょっと言葉でありましたけれども、今回はそういうことではなくて、今回の正しい認識は、小田原市と南足柄市が合併も含めて中核市、県西地域の連携中枢都市圏の中心市となり得るかどうかなというのを目指して始めるということであって、我々８町の町が合併ということで協議に加わるということではないということの認識の説明を含めて、まちづくり集会の中で話をさせていただいたつもりなのですけれども。

そういう点において、この動きはこの動きとして連携中枢都市圏の中で、我々上郡、また開成町を含めて、きちんと、これからも対応を考えていかななくてはならないということで、研究会を立ち上げてやっていくつもりでありますけれども、今、菊川議員が言われたように、私も答弁の中でいろいろお話をさせていただいた中で、きちんと２市の協議は見守りながら、我々開成町はそれに左右されることなく、今ある計画をきちんと持っておりますので、それに沿って進めていきたいというふうに答えております。

そういった中で、菊川議員が言われる三つというのは、日本一元気、きれい、健康と。これは、平成２５年から始まった総合計画の。３年前にスタートさせていただきましたけれども、総合計画をスタートするに当たり、町民の皆さんと一緒に一つの目標に向かっていくのに、こういう三つのスローガンを掲げさせていただいた中で今日までやっておりますし、これからも三つのスローガンをもとに計画を立てて進めていきたいと思っています。

例で言わせていただくと、これから３月議会の予算の質疑になりますけれども、２８年度でいけば、元気というのは、先日のまちづくり集会でも人づくりという中で、まず一つは子どもの元気というのが大事だなと。子どもたちの元気な声が響き渡る町にするためには、では、どうしたらいいかと。子育て支援を充実するために、駅の東側に常設型の支援センターをつくる。また、待機児童が出ないように保育所の誘致、これは１年後になりますけれども、していくと。教育については、土曜学校を創設して、子どもたちが道徳心のある、生きる力のある、そういうふうな子ど

もたちに育て上げたいという。これも元気の中の一つの政策だと思います。

二つ目のきれい。これから開成町は人口を増やして、できるだけ若い世代の人たちに移り住んでもらう施策を打ち出すのですけれども、それに伴って、ごみでいけば、人口が増えて、ごみも増えてというわけにはいかないので、できるだけ人口が増えてもごみは減らすという方策の中でさまざまな施策をやっていく。また、目に見える形で言えば、あじさいまつりを毎年やっておりますけれども、もうすぐ今度はあじさいまつりも30周年を迎えますので、あじさいの里だけではなくて、開成町全部があじさいの町となれるように、そういう促しをしながら見た目のきれいさも推進をしていきたいなと思っております。

今、北部活性化の中でレンゲの話、また菜の花を昔、植えたのだという話もありますので、そういう意味も含めて、花に対して、きれいということも含めて、観光も含めて、考えながら進めていきたいなと。

最後の健康は、管理栄養士を今年度、初めて職員として採用しましたので、食育に力を入れながら、子どもたちの食育、また年配の高齢者の皆さんの食育、健康管理、平均寿命を延ばすための施策、こういうものを日本一元気、きれい、健康の目標の中で28年度も進めていきたいと考えておりますので。また、これは、これからの予算審議の中で詳しくお話をさせていただきたいと思いますので。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○11番（菊川敬人）

そうだと思うのです。町長の三本柱はまちづくりの一つの基本となっておりますので、そこはしっかりと述べていただきたいなという感じがいたしました。

まちづくりの基本は、自然豊かな環境と町民が共存し合い町をつくっていくことかなというふうに考えます。そして、商業が力強く発展し、農業や恵まれた自然あふれる町を求め観光交流を深め、若い世代の方々が定住していただくための雇用の場を確保・拡大する必要があるということは、もう言うまでもないと思います。また、高齢者や障害のある方にとっても住みやすい環境が求められるわけであります。

現在、開成町は、町を三つに分割しスリーゾーンに分かれております。町全体を一つにまとめた見方というか、どうしても分割したような形で見てしまう見方ができるわけではありますが、今後も、こういう形のスリーゾーンについては、まちづくりの方針でありますので続けられると思いますが、今、スリーゾーンで南部開発が終わりまして、今度は北部に向けて活性化を図っていくということではありますが、町として、町を前へ進めるために一番強固となるまちづくりのポイント、これをどこに置かれるかということではありますが。今、合併なんかの話が出ていますが、まちづくりの本当にここはしっかりと押さえなくてはいけないポイントというのを町長はどこと考えておられますか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

難しい問題ですけれども、先日のまちづくり集会でもポイントとして上げさせていただいたのは人づくりだと思います。昨日も地域リーダーさんの研修会で、私、また、そのときに話をさせていただきましたけれども、子どもたちの教育のために地域の人の力が必要だという。自治会活動の中で自治会加入100%を目指す中で、いかに外から新しく、今、人を呼び込もうという施策の中でやっておりますけれども、そういう人たちが移り住んでいただいた中で、その人たちが地域の中で顔の見える関係をつくって活動していくというのが私は一番大事なことでと。

町の元気というのは、数式的にも人口増加率がトップとか橋ができたり道路ができたりと、目に見える形もありますけれども、やはり住んでいる開成町民の皆さんが元気であることが一番大事。元気であるためには、地域の中で、隣近所の顔の見える関係の中で安心して開成町に住んでいられる。やはり人づくり、人の発見・発掘、いろいろな外から来た人たちが、どういう能力を持っているかと。それは、地域の人たちで、ぜひ自治会の中で探してほしいという話を昨日もさせていただきました。いろいろな人たちの開成町の人材を、いかにその人たちの能力を引き出していくかというのは、すごく大事。開成町の将来にとって、その人たちの力がこれから元気の源になってくると私は考えておりますので。

もちろん、北部、南部、中部の優先順位というのはありますけれども、これから北部に力を入れていくというのは。2020年という後ろが、東京オリンピック・パラリンピックが決まっておりますので、それに向けて整備をしていきたいというものもありますけれども、長期的なものとしては、いかに人づくりを取り上げて重点的にやっていくかと。これは長い目で見ていかなければいけない問題で、簡単に1年、2年でできる問題ではないという認識のもとで、28年度から、そこにさらに重点を置いていきたいと考えています。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○11番（菊川敬人）

では、広域連携の必要性の観点からお伺いいたします。

不確定要素が多いものの、将来的に広域合併が生じるときに、開成町が独自でしっかりとしたまちづくりを進めることで一つの広域的リーダーシップをとることが必要だと思います。現状で、今、5町でまとまり、将来へ向けた連携をすることの意思疎通が図られているのかどうか。本日の新聞等によりますと、会議体を設けたというような記事も出ておりました。上郡の町村会の会長である町長は、そのところは、しっかりとした方向性について投げかけをしていくべきではないかなと思います。具体的項目を定め、あるいはスケジュールを作成するということには、まだ至っていないと思いますが、5町の連携へ向けた方向性について、現在、どのような考えであるのか、答えられる範囲で結構ですからお伺いしたいというこ

とと、我々に見えるような形で、町民に見えるような形にさせていただくことが、5町はもとより、町民が一体となるための必要な項目ではないかと思います。

それから、実際に事務の共同処理等を実施していくためには、内容に応じて定住自立権形成協定とかというのがあったわけではありますが、地方自治法上の事務の共同処理にかかわる決まり等を定める必要があったりとか、お互い自治体間の連携を可能にする制度が必要となってくるわけではありますが、そうなりますと大変多くの労力を費やしていかなければならないわけでありまして、さあ、それでは広域で連携しましょう、運営しましょうといっても、なかなか複雑で難しい部分が多いのかなというふうに考えます。過去の経緯からしても、相当準備をする期間を設けなければ、あるいは検討する期間を設けなければならないというふうに考えます。

本気で4町あるいは5町が広域連携を図る体制づくりをしていくのか、それとも小田原、南足柄市の動向を伺いながら方向性を見きわめていくのか、上郡の町村会としての現状と今後の考え方を伺いたいわけではありますが。5町の会議体ができたとことでありますので、この会議体の現状、どのような動きをされているのか、わかる範囲で結構でございます、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

上郡町村会の今、会長をしているのが開成町ということで、また地形的にも開成町は真ん中にありますので、そういう意味では、私も意識をしながら、その辺はリードしていかななくてはいけないなと思っております。

今、菊川議員から4町という話も出ましたけれども、上郡は5町ですので。それは、一つだけ、どこを外すというわけにはいかない。必ず上郡5町という枠組みの中で、これはやっていきたいと考えております。また細部については課長から話をさせますけれども、やはり上郡5町の中で、多分、山北さんが合議体という名称で、開成町は研究会という名称で、ちょっと名称の名前が違っておりますけれども、上郡5町の中で、小田原市、南足柄市の動向を睨みながらも、かつ我々5町は5町で足柄地域や、また広域連携のあり方についてきちんと研究をしていくと。その会ができたということで、それは細部説明させていただきましたけれども、それは開成町が、これからそういうふうなことの中で町村会長としてリードをさせていただきます、そういう会をつくってやっているということで認識をしていただきたいと思います。

これからは、5町がいかに同じ情報共有の中で連携していくかというのは、すごく大事な部分。今までも連携連携という言葉はあったのですけれども、なかなか、それが具体的に進んでいない。一部事務組合とか、広域のごみの関係はやっておりますけれども、もっともっとやらなくてはいけないことがたくさんあるのだなというのは、ほかの町の首長さんからも今回の件を契機に出ておりますので。よく例としまして広域の観光協会の話とか、いろいろな話が出ておりますけれども、そうい

うものは、ほかの首長さんも。もっときちんと真剣に、これは前向きに、町民の皆さんにも目に見える形にしていかななくてはいけないなという認識を持っていただける首長さんも今は多く出ておりますので、そういう中で、具体的に町民の皆さんに見えるような形に進めていきたいと考えております。その一つして、まずは、いろいろな調査・研究をしなくてはいけない部分がありますので、その点については課長のほうから説明をさせます。

○議長（茅沼隆文）

企画政策課長。

○企画政策課長（岩本浩二）

それでは、お答えをさせていただきます。

先ほど答弁でも町長のほうから申し上げましたとおり、足柄上郡の枠組みにおきまして、圏域のあり方等を議論して、2市協議に並行して連携中枢都市圏、こちらのほうの形成における課題、影響等について調査・研究を行う会議体というものを足柄上郡5町で発足をいたしました。5町の政策的な発展、事務の効率化等を踏まえて、広域連携の拡大の可能性ですとか将来における選択肢、これを検討を行うということになってございます。平成28年10月までに中間報告をさせていただくと。それと、2市協議の、ある程度、方向性が出てくるところの前に、平成28年度末、29年の3月には最終報告を行う予定となっているというようなことでございます。

会議体につきましては、5町の副町長と広域行政担当の課長のほうで研究・調査を行っておりますが、その上には、当然、5町の首長に報告もあわせて行うというような形になってございますので。こちらの座長につきましては、大井町の町長のほうでお務めをいただくというようなことで、調査・研究の仕切りについては開成町の副町長が中心になってやっていくというような構造で進めてまいりたいというふうに考えてございます。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○11番（菊川敬人）

2月2日の記者発表を受けて、いち早く会議体をつくられたということで、非常に素早い動きだなということで評価するところであります。内容については、よくわからなかったものですから、どういうことをやられるのかなというところで、ちょっとお伺いしたかったなというふうに思います。

それから、連携中枢都市圏とか、今、言われていますが、合併については、一つは吸収合併とかということもあるわけでありまして、平成の大合併のときの結果等を見ますと、中枢都市圏でもそうだと思うのですが、中心市となるとところから距離が離れれば離れるほど、余り日の目を見ないというか、言い方は悪いのですがけれども損をするというような形の結果が出ておるように思います。そういうことにならないようにということを、ちょっと危惧するところでもあります。



5 町が広域で連携する必要性は、多分にあるというふうに私も思います。開成町は開成町として、しっかりとしたまちづくりを行っていくべきでもあると思います。ほかの連携する町と同調しながら、開成町は開成町で、またさらに別枠でしっかりとしたまちづくりを進めなくてはいけないのかなというふうな感じがいたします。5 町の中で同じような形で、ドングリの背比べではないですけども、だんご状態になって一体となっても、なかなか結果的にはいい結果が出ないのかなというふうな感じもいたしますので、どこかがリーダーシップをとるべきではないかなと思います。それは、私が希望するところは、今の町村会長であります開成町が手を挙げて、しっかりとリーダーシップをとっていくべきであると思いますが。多分、町長も、そういうお考えだと思いますけれども、改めて、その辺のところをお伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

改めて、責任の重大さも含めて、きちんと。今、そういう立場にある以上は、その責任を果たすということで考えていきたいと。一生懸命やりたいと思っています。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○11番（菊川敬人）

本日は以上のところを質問したいなというふうに思っていてまして、まだ、なかなか決まっていないので、答弁のほうもなかなかできない部分があるかと思いましたので、その辺でとどめたいと思います。

要は、私が最後に言いたいところは、開成町は開成町としてしっかりとしたまちづくりを今まで進めておられますので、その強みを町外へ向けて発信していただきたいなというふうに思うのです。

一つ事例で言いますと、富士宮焼きそばがありますが、これは、実は裏には仕掛け人がいて、その人は、とにかく富士宮焼きそばを富士宮以外のところに発信するということを専門にやっておられた人がいるわけです。これは、新聞であり、テレビであり、あるいはラジオ、そういうところに常に発信をし続けて、そして焼きそばそのものを全国に広げていったという、そういうことをやられた方がおられました、直接、その人の講演を聞いたことがあるのですが。開成町は今、5 町の中で人口も一番伸びていますし、しっかりとしたまちづくりができていると私は思いますので、どうか、そこのところを町外に向けて大いに発信していただきたいなというふうに思います。

合併の件については、もう少し時が過ぎたら、また改めてお伺いしたいと思いますので、本日はこれで質問を終了したいと思います。

○議長（茅沼隆文）

これで、菊川議員の一般質問を終わりにいたします。

ここで暫時休憩いたします。再開を14時55分にします。

午後2時35分